

学力が伸びる授業の成功(失敗)要因は検証してみないと裏付けられない

仮説検証と授業力は比例する

【仮説:学力向上につながる要因】

—学力向上につながる仮説検証を重視するシステムと単なる満足度測定システムの違い—

●【あるべき姿】 検証すべき仮説は数多く存在する

熱意、声のわかりやすさ、声の大きさ、全体設計、板書のわかりやすさ、板書のスピード、板書の量、板書写す時間
授業目標の提示、授業規律への配慮、講義の量、演習の量、雑談の量、小テストの有無、生徒理解度の把握
生徒理解度の確認、教科書以外のプリント活用、幅広い情報提供、勉強方法の紹介、重要ポイントの示し方
まとめの有無、うるさい生徒への対応、説明のわかりやすさ、指示のわかりやすさ、生徒からの質問への対応
授業外での対応、課題の量、課題の内容、授業進めるスピード、授業難易度、入試問題の情報提供

このようにおおよそ30個はあがります。

これに近年は、アクティブラーニング型授業を展開されていますので、グループワークや各種ICTがそれぞれ
学力向上にどの程度相関関係があるかを確認するのも重要ではないでしょうか。このようなAL型授業の仮説も
弊社想定で20~30ぐらいはあろうかと思われます。

●【現状】 一般的に行われている授業アンケート(満足度測定を主眼とした授業アンケート)

例えば、以下のようなパターンが多い。

質問項目数が10~20。各内容を4つの選択肢(例えば、Aそう思う Bどちらかといえばそう思う
Cどちらかといえばそう思わない Dそう思わない)から一つを選択回答する。

このパターンの場合、調査内容は、以下のようなパターンとなります。

学力向上や関心喚起などのような成果(生徒の変化)に関する内容がおおよそ5~7。
授業の進め方や資料の活用などの要因(教員の工夫)に関する内容がおおよそ5~13。

すなわち、

要因分析(仮説検証)は、5~13個に限られる。

授業改善の手がかり

少ない



多い

●【進化型】 仮説検証型の授業アンケート (授業力が確実に高まる授業アンケート)・・・弊社スタイル

成果確認のための設問は、7個まで

要因分析(仮説検証)のための設問は、60個まで

お問い合わせ

切り離さずそのままお送り下さい FAX.075-212-7016

詳しい説明を聞きたい 詳しい資料をみたい

貴校名

電話

ご担当者お名前

メール

株式会社ヒューマン・リンク
京都市中京区泉正寺町
電話 075-212-7015
FAX 075-212-7016